

3. 鵜島婦人会

多 田 愛 梨

1. はじめに
2. 女性組織
3. 鵜島婦人会
4. 活動内容
5. 無くなった活動と原因
6. 考察
7. おわりに

1. はじめに

今回の実習の調査地である宝立町鵜島地区は、飯田湾に沿った道に7つの町会が連なる地区である。一週間の聞き取り調査の間、1本道に沿って地区を歩き、多くの方にお話を聞いた。初めて訪れた鵜島地区での調査は、わからないことばかりで不安を抱きながら始まるも、鵜島地区の人々の優しさから順調に調査を進めることができた。私が聞き取り調査を行った方は比較的女性が多く、またお宅に訪問した際奥様がお茶を出してくれるなど、今回の調査では女性に多く関わったと思う。優しく、温かく迎え入れてくれる鵜島地区の女性と関わるうちに、鵜島地区の女性が加入する婦人会に興味を湧いた。

本章では鵜島地区の女性が加入することができる女性組織について述べた後、特に鵜島婦人会の概要や活動内容について詳しく述べていく。最後に、これらの総括として考察を行うことにする。

2. 女性組織

本節では宝立町鵜島地区の女性が参加することができる女性組織の概要について述べてゆく。

2.1 婦人会

婦人会は、明治初期ごろに誕生したものが始まりとされており、その当初は仏教、キリスト教といった宗教と関連して結成され、慈善、教育、風俗改良などを目的としているものが多数であった。そして現在では、「婦人会」といえば一般に地域婦人会のことを指すようになり、それらは男女平等の推進、青少年の健全育成、家庭生活ならびに社会生活の刷新、高齢化社会への対応、地域社会の福祉増進、世界平和の確立などの実現につとめることを共通の目的としている団体とされている（畑 2014 : 35）。

珠洲市宝立町には、宝立町全体の婦人会と鶴島 5 地区合同の鶴島婦人会、鶴飼婦人会、柏原婦人会がある。しかし、鶴飼婦人会は解散の危機にある状態である。また、柏原婦人会も名前が残っている程度で婦人会としての活動は行われていない。今回の調査地である宝立町鶴島地区の鶴島婦人会については、第 3 節で詳しく述べる。

2.2 仏教婦人会（仏婦会）

寺院で行われている婦人会のことを仏教婦人会と言い、仏婦会と省略して呼ぶこともある。鶴島地区には、金相寺、真浄寺、覚性寺の 3 つの寺院があるが、金相寺では仏教婦人会は行われていない。仏教婦人会はそれぞれの寺院の檀家で構成され、成人となった女性が加入することができる。主な活動は会員が集まって行う寺院の掃除や、京都府にある寺院への旅行などである。仏教壮年会（仏社会）という組織もあり、それには檀家の成人男性が加入することができる。

2.3 JA すずし女性部（農協婦人部）

JA 女性組織とは、JA をよりどころとして、食や農、くらしに関心のある女性が、集まって活動する組合員組織である。主に、食農教育や地産地消にかかわる活動、助けあい活動（高齢者福祉）、環境保全活動などに取り組んでいる。

珠洲市の農業協同組合である JA すずしにも女性組織があり、これは JA すずし女性部と呼ばれる。農協婦人部と呼ぶ人もいる。年間費は 500 円である。主な活動は年 3 回のバス旅行や、地域のイベントへの参加などである。

JA すずし女性部に加入している A さん（宗玄、女性、70 歳代）は、女性部の活動を楽しみにしているという。最も楽しみな行事は年 3 回のバス旅行であり、その旅行は日帰りで行われ、珠洲ビーチホテルでの会食などを行っている。年末にも一度旅行があり、珠洲市蛸島町にあるすずの湯に行き、会食、余興、風呂などを楽しむことが恒例になっているそうだ。この女性部は珠洲市全体に加入者がいるため、市内中に友人が出来るのが嬉しいと語っていた。また女性部に加入していることで、お菓子やジュース、宣伝として漬物の素などの商品が貰えたり、車や着物、装飾品

などの展示会のお知らせが届くことがあるという。友人とその展示会に赴くこともあり、そこでは他の知り合いと会うことが出来るので、展示会も楽しみの1つとなっているようだ。

3. 鵜島婦人会

本節では今回調査した宝立町鵜島地区の婦人会である鵜島婦人会を取り上げ、その概要について詳しく述べていく。これらの情報は、主に鵜島婦人会の会長を務めたことがあるBさん（宗玄、女性、60歳代）にご協力いただき、現在（2014年）役員を務めるCさん（白山、女性、60歳代）、Dさん（八幡、女性、70歳代）のお二人にもご協力いただいた。

3.1 役員

役員は会長1人、副会長1人、会計1人の執行部が3人と、宗玄、中鵜島、上稲荷、下稲荷、白山、八幡の6地区の班長が6人、宗玄、中鵜島のみ役員が1人ずつおり、全員で11名である。宗玄、中鵜島は会員数が多いため、役員が2人いる。また、役員の中から1人が会計監査員を兼任する。各役員の任期は執行部が2年、地区の役員は1年である。前年度の仕事や活動内容を次の人に伝えるため、会長と副会長の任期は1年ずらされており、交互に選出される。会計は仕事が行いやすいように、会長と同時期に務める。執行部は同じ地区から選出され、宗玄、中鵜島、上稲荷、下稲荷、白山、八幡の順番で回す。執行部の選出方法は仕事を務まりそうな年代の人が5、6人集まって話し合い、その中から決められる。地区の班長は地区毎の会員数が少ないため、1年毎に皆で回している。そして、3月の総会で各役職が発表される。近年は、学校の親子参加のイベントが多かったり、パートに出たりと忙しい人が多いため、特に若い人は役員をやりたい人が少ない。婦人会の会員数が少なくなり、なお且つ活発に活動に参加できる年代の会員となると人が限られるため、同じ人が何度か役員を行うこともしばしばである。以前は進んで執行部になる人がいたため、何年も務めてもらっていたが、現在ではそのような人はいないため、12年ほど前（2002年頃）から2年で交代する制度が作られた。

Bさんは、自分が会長を務めるとは思ってもいなかったが、役員を選出する話し合いのうち、いつの間にか自分が会長をすることに決まってしまったようだ。同時期に選出された会計の人と協力し、役員を務めていない人でも仕事を手伝ってくれたり、多くの会員がサポートしてくれた結果、会長を務めた2年間困ったことはあまりなかったという。行事に参加してくれる会員の人たちが本当にありがたかったそうだ。鵜島婦人会の会長として市の会議や行事に参加することで、昔の同級生や別の地区に住んでいてなかなか会うことのない知り合いに会うことができ、元氣かどうか知ることができた。また、それらの活動で新しく知り合いが増えたり、知識を得るこ

とができたという。

20 年ほど前に会長と副会長を務めた E さん（八幡、女性、80 歳代）は、教員をしていたということもあり、執行部に選出された。当時の会長は教員あがりの人が多かったそう。教員が会長になると真面目という印象を持たれるのか、あまりいい反応はされなかった。そのため E さんは教員らしくない面白いことや、他の人が面倒がってやらないような嫌なことも自ら率先しておこなった。それらの結果、会員たちは E さんに付いてきてくれるようになったという。婦人会は若者からお年寄までが 1 つの組織になるので、1 人 1 人を大事にしてまとめることを目標に役員を務めるようにしていたそう。婦人会役員としての活動は、楽しかった思い出しかないと言っていた。

3.2 会員数、年代

現在（2014 年）の全会員数は 64 人である。40 歳代から 80 歳代までの会員がいるが、活発に参加しているのは 60 歳代前後の会員である。既婚者が多いが、未婚者でも参加することができる。一定の歳になったら引退ということはなく本人の意思でやめることができるが、F さん（上稲荷、女性、70 歳代）は、会員数の減少から活動に参加しなくてもいいので会員でいてほしいと言われ、現在も婦人会に加入しているそう。70 歳代の会員は全体の 1 割程度で、婦人会として参加する地域のイベントの手伝いなどには参加することができないという。老人ホームに入った人はそれを機に婦人会をやめることが多かった。また、老人会には 65 歳以上になると加入することができ、婦人会をやめ、老人会に加入する人もいる。

3.3 会費

会費は年間 700 円で、その内 120 円を市婦人会に支払っている。会費は 5 月に集められ、市婦人会費は 5 月に行われる理事会で提出する。花見、県政学習バス旅行、生花教室の際は、会費とは別に参加費を徴収する。会費の用途は行事の費用だけでなく、珠洲市鶴島生活改善センターの畳やトイレの修理にも使われる。現在の婦人会の貯金は昔婦人会に加入していて、現在は老人会に加入している年代の人が貯めたものなので、老人会も使用する改善センターに費用を使用するようにしている。

3.4 入会の経緯

昔は婦人会に加入することは当たり前だと考える人が多く、一家に 1 人は婦人会に参加するものであったため、母が老人会に加入することをきっかけに自分が婦人会に加入することがほとんどであった。また、仕事を退職し、自由な時間が増えたことから婦人会に参加する人もいた。近年

では、婦人会は入ることが当たり前という考え方がなくなってきており、仕事や子どものイベントで忙しいという理由で入らない人も多くなっている。役員になることが嫌で婦人会に加入しない人もいるそうだ。会長をしていた B さんは役員が数人集まり、婦人会に加入していない人に対して直接勧誘を行ったという。役員にならなくてもいいことを伝えると、何人か加入してくれたが、結局やめてしまう人もいた。

4. 活動内容

以下の表 1 は平成 25（2013）年度の鶴島婦人会事業報告から作成したものである。本節ではこの表に沿って鶴島婦人会の年間事業について、B さんからの情報を元にして述べていく。また婦人会会員に聞き取りを行った際、行事について意見をいただいた。それはその行事の項目に記述する。

4.1 交通安全指導

毎月 1 日と 15 日に駅の前や地区のバス停の前で、タスキ等をかけて行われる。日程が土日になった場合は平日にずらして行う。8 月は学校が夏休みに入るため、交通安全指導は行われない。月ごとに担当の地区が決まっており、宗玄、中鶴島、上稲荷、下稲荷、白山、八幡の順番でまわす。各地区は年に 2 回交通安全指導を行うことになる。

4.2 役員会・総会

役員会は 4 月と 2 月に行われる。4 月の役員会は新しく決まった役員の顔合わせ、1 年間の行事決め、県政バスの場所決めなどを行う。2 月は 1 年間の締めを行う。3 月の総会の資料作りなどを早めに行うため、役員会の日程を 2 月頭に早めた。その他は必要に応じて役員会が開かれる。平成 26（2014）年度はデカ曳山祭の前に役員会が開かれ、何を作るか、当日の準備について話し合いが行われた。

総会では、1 年間の決算報告と次の会長か副会長（その年によって、どちらを決めるかが変わる。）を任命する。その後、役員でお疲れ様会が開かれる。場所はラプロ恋路などがよく選ばれ、会食を行い、風呂に入る。

4.3 お花見会

婦人会と老人会の合同のお花見会を、珠洲市鶴島生活改善センターの前で行っている。この行事は 3 年前（2011 年）から始まったものである。この地域では秋祭りの時期と敬老の日の時期が

被るため、敬老会を行っていなかった。そのため、敬老会に代わるものをしようということでお花見会が開かれるようになった。また、現在の婦人会は昔からの貯金を崩しながら活動を行っているが、それを貯めてくれたのは現在老人会にいる人達ということで感謝の意味も込めている。

日程は桜が満開になり、天気の良い日に行おうということで、連絡は遅くなるが、直前に確定した日を決める。参加費は婦人会会員が 300 円で、老人会会員は婦人会の招待となっているため無料で参加できる。費用の一部は婦人会費から補てんしている。平成 26（2014）年度のお花見会参加者数は 74 名である。11 時ごろから始まり、お弁当をとって皆で食べ、カラオケをしたりお話をしたりする。男性の参加者はお酒を飲む人もいる。お花見会は 2 時間ほど行われる。このお花見会は老人会の人に好評であり、毎年開かれるようになった。婦人会としても地域の年配の人の様子が伺える良い機会になった。

表 1：鵜島婦人会事業計画

月	日	事業名
4 月	6 日（土） 13 日（土）	役員会 お花見会
5 月	19 日（日）	第 35 回婦人体育レクリエーション大会 日赤募金 ちふれ化粧品購買運動
6 月	6 日（木）	県政バス
7 月	28 日（土）	改善センター清掃
8 月	24・25 日（土・日）	第 24 回トライアスロン珠洲大会協力
9 月	23 日（日）	戦没者慰霊祭参加
10 月	13 日（日） 20 日（日）	デカ曳山祭り 宝立町芸能祭
11 月		
12 月	29 日（日）	生花教室
1 月		
2 月	1 日（土）	役員会
3 月	9 日（日）	総会
毎月	1・15 日	交通安全指導

（出所：鵜島婦人会事業報告より筆者作成）

4.4 婦人体育レクリエーション大会

これは珠洲市婦人会が開催する行事であり、鶴島婦人会からは10名の参加者を出している。主に鶴島婦人会の役員が参加する。近年は参加するチームが減ってきたようである。参加者は40歳代から60歳代がほとんどである。競技の内容はリレー、玉入れ、なわとび、○×クイズなどであり、ラケットでボールを運びながらの競争など年配の人でも参加することができる競技が工夫されている。会場の県民体育館へは、各自が自家用車で乗り合わせるなどをして向かう。

4.5 日赤募金

募金額は500円からである。夜に役員で家をまわり、募金を集める。集めた募金を日本赤十字に送ることで、手数料が貰える。その手数料は婦人会費に充てる。

4.6 購買運動

鶴島婦人会ではちふれ化粧品やコンプ、そうめんなどを年に一度婦人会の希望者全体で合同購入している。その内、ちふれ化粧品の購買運動を5月に行っている。婦人会を通して合同で購入することで、個人で購入するよりも少し安く購入することができる。また、手数料が貰えるので婦人会費に充てる。

4.7 県政バス

これは石川県が主催する「県政学習バス」という事業で、女性の団体を対象に、県及び市町等の施設見学を通して県政に対する理解を深め、社会意欲を高めてもらうことを目的としている。5月から11月の期間で希望の日程を設定し申し込み、抽選に当たると県がバス代を負担してくれる。参加人数は30~50人と規定されている。

鶴島婦人会は現在（2014年）3年連続で抽選に当たっており、この県政バス旅行は婦人会会員の最も楽しい行事となっている。個人の参加費は500円で、残りは婦人会費から補てんする。昼食代は参加費に含まれているが、施設の入場料や体験料は個人で支払う。30人以上の参加者がいないと開催されないため、毎回婦人会会員以外の参加者も募って、なんとか30人以上の参加者を集めているようだ。婦人会会員以外の参加費も、婦人会会員と同じく500円である。平成25（2013）年度は参加者が35名で、8時30分に見附駐車場を出発し、消防学校と大野からくり記念館を見学した。平成26（2014）年度は参加者が33名で、8時30分に見附駐車場を出発し、11時ごろ消費生活支援センターで振り込め詐欺などに関する講習を受け、地場産業センター内で昼食をとり、午後は金沢城公園を訪れ、ガイドさんから菱櫓などに関する説明を受けた。17時ごろに見附駐車場に到着した。

Fさんは県政バスを一番楽しみにしているという。個人ではなかなか旅行をする機会がないが、婦人会の事業として県政バスがあるので、個人では行かない所に行けることが楽しいそうだ。また、県政バスは学習を目的にしているため、施設の見学は勉強になることも多く、個人の旅行とは違い得るものも多いことも県政バス旅行の良いところだという。県政バスではさまざまな施設を見学するが、やはり一番楽しいのは参加者との会話であり、行き帰りのバスが一番楽しいかもしれないと笑顔で語っていた。

4.8 改善センター清掃

珠洲市鶴島生活改善センターは、上稲荷にある公共施設で、婦人会や老人会の行事などによく使われる。清掃は早朝 6 時から役員で行われる。清掃の際、新しく白いタオルを一本持参し、回収する。集められたタオルは珠洲市がまとめ、市内の老人ホームに送られる。

4.9 トライアスロン珠洲大会協力

トライアスロン珠洲大会は 2014 年度で 25 回目の開催となる珠洲市の夏の恒例行事である。この大会にボランティアとして参加するよう珠洲市婦人会に依頼があり、鶴島婦人会からも何人か参加している。ボランティア内容は県民体育館の前で珠洲市役所の職員と共に、うどんやそばを配ることである。

4.10 戦没者慰霊祭参加

宝立地区の慰霊祭に婦人会として参加し、お供え物を出す。参加は強制ではないが公民館から連絡がくるため、毎年参加している。

4.11 デカ曳山祭り

毎年 10 月の第 2 日曜日に鶴島海岸で開催される珠洲デカ曳山祭りは、鶴島地区伝統のデカ曳山を復活させ、参加者を募って皆でデカ曳山を曳く祭りである。鶴島婦人会は出店を出し、トン汁やまつたけご飯を販売している。価格はトン汁が 100 円、まつたけご飯が 500 円で、売上は婦人会費に充てる。前日は下準備を行っておき、当日は朝 5 時ごろから鶴島生活改善センターに集まり、準備を行う。

4.12 宝立町芸能祭

婦人会として出店を出すまではしないが、お茶を配るボランティアなどを行う。

4.13.1 生花教室

12 月末の週末に正月用のお花を生ける教室が、鶴島生活改善センターで開催される。先生は婦人会内のお花に詳しい人をお願いする。参加費は花代の 500 円で、婦人会会員でなければ 2000 円である。花が 500 円で購入できるため、教室に参加せずに花だけ注文する人もいる。参加者はハサミ、花器、剣山を持参しなければいけない。6~7 年前（2008 年頃）に先生がいない時期があり、その時は生花教室を開催しなかったという。今までは鶴島婦人会内から先生を出していたが、平成 26（2014）年度は今まで先生をお願いしていた人が忙しく時間がとれないということで、鶴飼の人に先生をお願いした。生花教室を開催しないことは少し物足りなく感じたことから、他の地区の人をお願いしてでも生花教室を開催することに決めたそうだ。

4.13.2 生花教室の記録

平成 26（2014）年 12 月 28 日日曜日に生花教室に参加した。以下はその記録である。

<スケジュール>

- 8：00 珠洲市鶴島生活改善センターを開ける。暖房をつけ、会場の掃除をする。
- 9：15 花が届く。
- 9：25 役員 2 名が到着し、3 名で机の設置や花の準備を行う。
- 9：55 先生が到着。
- 10：00 生花教室開始。
- 11：00 大体の人が生け終わり、役員が片付け始める。
- 11：30 片付けが終わり、生花教室終了。

8 時 30 分ごろに会場の珠洲市鶴島生活改善センターに到着すると、上稲荷の役員である G さん（上稲荷、女性、60 歳代）が私の到着を待っていてくれた。8 時ごろに到着すると連絡があったため、8 時に改善センターの鍵を開け、会場の準備をしてくれたそうだ。例年よりも早く準備をしてくれたと考えられる。生花教室当日は会長、副会長ともに来られないということだったので、上稲荷の役員である G さんが鍵を開ける役を引き受けたそうだ。花が届くまで聞き取りを行った。9 時 15 分ごろに花が届いた。花を注文した人は 35 人で、飯田にある横山生花店に依頼した。花を準備していると、白山の役員である C さんと会計である D さんが会場に到着し、机や座布団の準備を行った。先生が到着するまで聞き取りを行った。10 時開始のため、9 時 45 分ごろから参加者が集まり始めた。D さんが参加費を集めており、使用する花を選ぶため、参加者にくじを引いてもらっていた。花は 4~5 種類ほどあり、くじで引いた番号のものを使うようだ。9 時 55 分ごろに先生が到着し、軽く挨拶をした後 10 時に生花教室が開始した。開始の時点で 5 名の参加者がい

た。先生は参加者の間を周り、アドバイスを 행っていた。参加者は顔見知りのようで、雑談や参加者同士でアドバイスをしながら、自由に花を生けていた。会場に到着した人から生けはじめ、終わった人は自由に帰宅して良いことになっていた。生花教室というものの堅苦しい雰囲気ではなく、ゆったりとした雰囲気であいあいと花を生けていた。生け終えた後も参加者同士で雑談をしたりと、生花を教わるだけでなく、人々の交流の場となっていることが伺えた。花を注文したがその場で生けず、持って帰る人がほとんどで、10時から11時の間に自由に取りに来ていた。最終的に生花教室の参加者は7名であった。11時には皆生け終わり雑談をしていたが、CさんDさんGさんの3名が片付け始めたところ、残っていた参加者が片付けを手伝っていた。新年の互礼会の準備をしに来た人がいたため、一緒になって準備を行った。最後はCさんDさんGさんが残り、最終確認をして11時30分ごろ解散した。取りに来なかった人の花はCさんDさんGさんが届けるため持ち帰った。



写真1：生花教室の様子
(2014年12月28日 筆者撮影)



写真2：参加者の作品
(2014年12月28日 筆者撮影)

5. 無くなった活動と原因

鵜島婦人会には無くなってしまった活動がいくつかあり、その概要と無くなった原因について述べていく。

5.1 無くなった活動

5.1.1 盆踊り大会

8月15日、16日に鵜島保育所のグラウンドで行われていたが、15年ほど前（1999年頃）に無

くなった。婦人会と青年団の共催で行われ、費用は婦人会が負担し、主な運営は青年団が行っていた。老人会も参加していた。お盆の時期は家の用事が忙しいことから、婦人会としての参加はなかった。15日は盆踊り、16日は仮装大会が行われ、仮装大会では景品がもらえた。1週間前から盆踊り練習があった。子どもたちにアイスクャンディが配られた。

5.1.2 社会体育大会

10月10日に鶴島保育所の運動会と同時に行われた。婦人会と青年団の共催であった。場所は鶴島保育所のグラウンドである。午前には保育所の運動会が行われ、午後に鶴島地区の運動会が行われた。各競技の景品は婦人会が用意し、総合順位1位には宗玄酒造の日本酒3升、2位には2升、3位には1升が与えられた。運動会の後は各地区で宴会が行われた。

5.1.3 演芸会

1月から2月の間に行われた。時間は10時ごろから14時ごろである。場所は宝立町鶴飼にある宝湯の2階の広間で行われた。婦人会主催で踊りやモノマネ、のど自慢大会などが披露された。出演する人は婦人会会員で、鶴島地区の人を招待した。お昼ご飯は各自で持参した。

5.1.4 新年会

1月末から2月頭に行われていたが、15年ほど前(1999年頃)になくなった。大型バスを借り、輪島の旅館などに行った。日帰り旅行で、食事や歌や踊りなどの余興を楽しんだ。踊りや歌は婦人会会員の上手な人が披露した。参加者は多い時には100人以上いたが、無くなる頃には50~60人になっていた。

5.2 無くなった原因

婦人会の行事が無くなった原因として会員の人数が減少したことが1番の理由として挙げられる。しかし、聞き取りを行った結果、行事が無くなる原因と思われるものが2点あった。それについて述べていく。

5.2.1 活動場所の減少

以前は野外で行われる行事は上稲荷にある鶴島保育所のグラウンドを利用していた。しかし、現在はその保育所がなくなってしまい、グラウンドの土地は分割されて売られてしまった。過疎化によって子どもの数が減少したことが理由だと考えられる。現在では盆踊り大会や社会体育大会などのグラウンドを利用する屋外行事は無くなっている。

5.2.2 簡易保険による手当の廃止

以前は婦人会で簡易保険の集金を行っており、郵便局に持っていくことで手当が貰えていた。毎月地区の役員がお金を集め会計に渡し、それを郵便局に持って行っていた。その手当は結構な額であり、婦人会の重要な収入源であった。その収入によって様々な行事が行われていたが、郵

政民営化（2007 年）によって簡易保険は廃止されてしまい、手当を受け取ることができなくなってしまった。それによって婦人会の収入は減少し、行事を縮小せざるを得なくなった。

6. 考察

聞き取りを行った結果、婦人会行事を通して地域の女性たちとコミュニケーションを取ることを楽しみにする会員が多いことがわかった。しかし、現在の鶴島婦人会には 13 の行事があるが、その多くは地域のイベントに参加するものであり、役員を始めとする一部の会員しか参加しない行事である。多くの婦人会会員と交流できるような娯楽的行事はお花見会、県政バス、生花教室の 3 つしかなく、娯楽的行事の少なさが目に付く。第 5 節で述べたように鶴島婦人会は多くの行事が現在行われなくなってしまったが、その多くは娯楽的行事である。会員が求める娯楽的行事の多くが無くなってしまったのである。その原因となる会員数、活動場所、収入の減少は、鶴島地区の人口減少や国の政策などの自分たちでは対処しきれない問題であるため、行事が減ってしまったことは仕方ないと思われる。聞き取りを行った際も、行事が無くなることについては寂しいことだが、時代の流れなので仕方ないという意見を多く聞いた。現在では婦人会会員の年齢層も上がり、行事に参加できない人も増えているため、現在の活動で満足している人が多いようである。鶴島婦人会の今後について、私は現状を維持していくことが重要だと考える。現在の活動をより活発にしていくことは難しいだろう。しかし、婦人会活動を楽しみにしている人は多く、婦人会がなくなると寂しいという意見もある。婦人会が地域の女性にとって重要な女性組織であることは確実であり、活動を行わなくなってしまうことは避けたい。珠洲市婦人会も存在しているが、そこまで規模が大きくなると会員のまとまりもなくなり、人々の繋がりが薄くなってしまう。鶴島婦人会は地域に根付いた婦人会として、女性たちの交流の場となるよう現在の活動を維持してもらいたい。

7. おわりに

初めての実習調査ということで至らない点も多くあったと思いますが、宝立町鶴島地区の皆様のご協力のおかげで無事調査を終了することができます。宝立町鶴島地区の皆様、特に様々なお話を下さった鶴島婦人会の会員の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。